

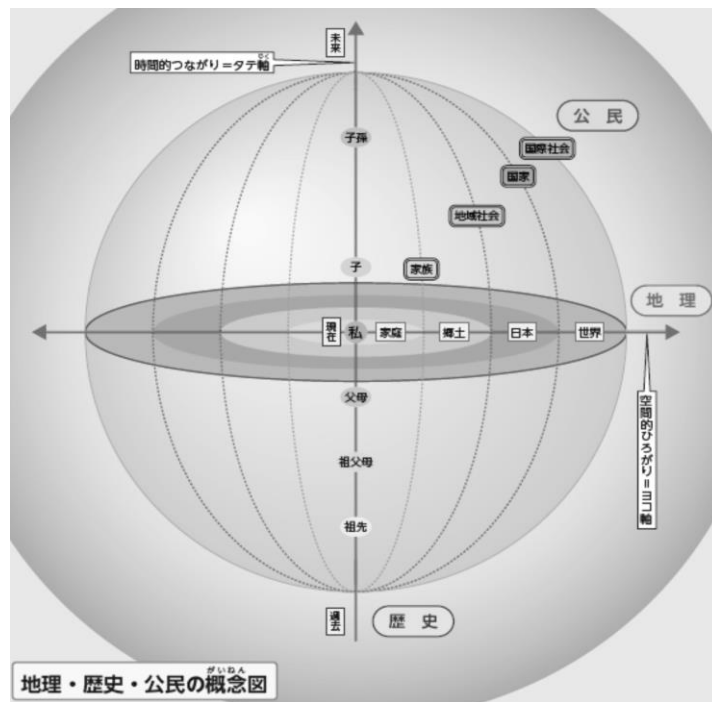
編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-20	中学校	社会科	公民的分野	3年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
227 育鵬社	公民 227-92	新しいみんなの公民		

1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、生徒一人ひとりが、歴史的分野で学習した「日本の歴史」に連なる存在であることを自覚した上で、「家族・地域社会・国家・国際社会」と「自分」の関係を認識することにより、これからの日本の国や地域社会を支え、国際社会に貢献できる日本人としての公民的資質の基礎を養うことを意図して編集しました。



2. 編修の基本方針

本書は教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の基本方針で編集しました。

**「他人事」が
「自分事」に
なる編集で、
生徒の学習意欲が
確実に高まる！**

- (1) 生徒が「自分の立ち位置」を知り、「他人事」を「自分事」としてとらえることで、現代社会への興味・関心・意欲を高め、自ら考える態度を育てます。
- (2) 現代社会の理想と現実を、本文と豊富な資料、コラムで示し、多面的・多角的な考察力、公正な判断力、適切な表現力を養います。
- (3) 現代社会についての基礎的・基本的な知識と、見方や考え方の基礎などを確実に定着させ、公民として必要な資質を育みます。

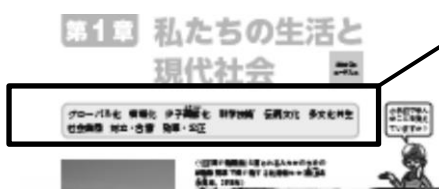
(1) 生徒が「自分の立ち位置」を知り、「他人事」を「自分事」としてとらえることで、現代社会への興味・関心・意欲を高め、自ら考える態度を育てます。

①生徒が「自分の立ち位置」を知る

小学校社会科で学習した関連内容については各章扉で、地理的分野・歴史的分野で学習した関連内容については該当する見開きで紹介することにより、小・中の系統性と3分野の関連性を高め、スムーズに学習に入れるようにしました。

それにより、生徒一人ひとりが地理・歴史の学習を踏まえて、「家族・地域社会・国家・国際社会」と「自分」の関係を認識し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。

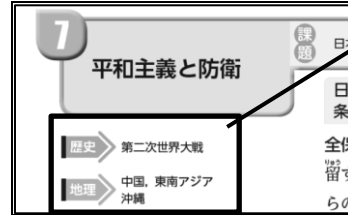
○小学校社会との接続



各章の扉には、小学校で学習した関連内容を紹介しています。

▲p.9

○地理・歴史との接続



地理・歴史で学習した関連内容については、該当する見開きで紹介しています。

▲p.52

②「他人事」を「自分事」としてとらえる教材

◆各章に「入り口」と「これから」を設置

各章の導入に、章全体の学習内容の趣旨をとらえさせる言語活動の見開き「入り口」を設け、各章の学習内容への興味・関心を促すようにしました。

また、各章の章末には、その章で学習した内容を踏まえて、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したり、未来の姿を構想できるような課題に取り組む「これから」を設け、学びに向かう力や人間性を養えるようにしました。

◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進をサポートする豊富な教材

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進をサポートする豊富な言語活動を設けました。これらの活動に取り組むことにより、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。

- 「スキルアップ」を4か所設置し、発表や議論のしかた、ディベート、KJ法、ランキング、ポスターツアーなど、公民の基礎的な技能を身につけられるようにしました。
- 本文での学習を詳しく説明したり関連する内容を取り上げた「学習を深めよう」を、50か所設置し、知識、思考力・判断力を身につけられるようにしました。
- 本文の学習を深めるために、個人やグループで作業や活動を行う「やってみよう」を11か所設置し、技能や表現力を身につけられるようにしました。
- 教科書で紹介した学習資料の活用を促す[資料活用]、考えたり、調べたりする課題を示す[見方・考え方]、見開きの「学習を深めよう」にはより発展的な学習となる[TRY!]を適宜設置しました。

③伝統と文化に関する豊富な教材

p. 20-25「第1章 第2節 現代社会の文化と私たちの生活」を中心に、我が国の年中行事や伝統文化に関する写真などを多数紹介しています。また、学習資料として p. 214-215「日本の伝統文化」を設けました。さらに、p. 182-183「文化と宗教の多様性」など、グローバル化の時代の国境をこえた文化の交流と多様性について紹介し、他国を尊重する態度を養えるように配慮しました。

(2) 現代社会の理想と現実を、本文と豊富な資料、コラムで示し、多面的・多角的な考察力、公正な判断力、適切な表現力を養います。

①現代社会の理想と現実が分かる教材

豊富な写真や新聞記事を用いて、生徒が日本と世界の抱えるさまざまな課題に関する幅広い知識と教養を身に付けてもらえるように工夫しました。また、国際情勢、安全保障問題など、国際政治の力学を踏まえた現実主義の視点から記述し、生徒が真理を求める態度を養えるように配慮しました。

- 「防災教育」について、p. 14-15「情報から知る現代と未来」、p. 16-17「学習を深めよう：防災・減災と情報通信技術（ICT）」では情報化との関連で取り上げ、防災情報の発信・活用に関して学べるようにしました。
- 情報化など知識基盤社会化による産業や社会の構造的な変化について、p. 14-15「情報から知る現代と未来」では情報通信技術（ICT）、ビッグデータ、人工知能（AI）、IoT（モノのインターネット）、シェアリングエコノミーなどについて取り上げました。それを踏まえて、p. 133「学習を深めよう：中学生が起業」、p. 147「学習を深めよう：フィンテック」、p. 148「学習を深めよう：革新的な金融サービス」などでは、「起業」と関連付けて詳しく取り上げています。

②領土に関する記述のさらなる充実

p. 186-187「国家の権利」、p. 190-191「領土・領海をめぐる問題」、p. 192-193「学習を深めよう：日本の領土をめぐる問題」では、我が国固有の領土である北方領土や竹島に関する領土問題や、尖閣諸島をめぐる情勢について、外務省ウェブサイトに掲載されている我が国政府の見解を要約して紹介しながら、地理的分野、歴史的分野における学習の成果も踏まえて記述することにより、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました。

③新聞活用教育（NIE）を促すために、新聞記事を多数掲載

新聞を活用した授業を促すために、新聞記事を多数掲載しています。

(3) 現代社会についての基礎的・基本的な知識と、見方や考え方の基礎などを確実に定着させ、公民として必要な資質を育みます。

①持続可能な社会をつくるための教材の充実

巻頭口絵①-②「『持続可能な開発目標（SDGs）』では、2015年の国連サミットで採択された、2030年までの国際開発目標である17のゴールを示しました。教科書で学習する内容について、17のゴールのどれに当たるのかを考えながら進めることができます。

また、p. 172-173「国際社会の入り口」、p. 174-175「SDGsがめざす持続可能な開発」、巻末付録①-②「持続可能な社会をめざして」を中心に、SDGsに関する教材を豊富に紹介することにより、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。

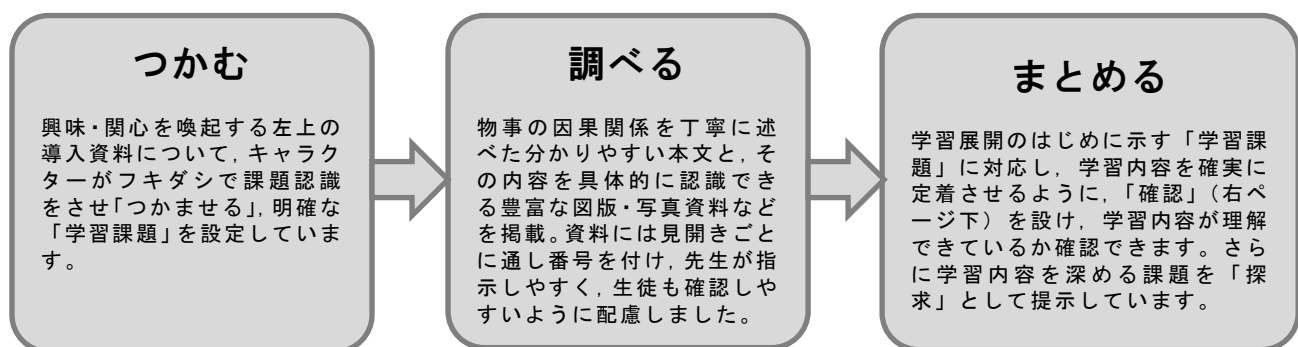
②公民的資質を養うための教材の充実

p. 38-39「憲法の入り口」、p. 74-75「憲法のこれから」、p. 78-79「政治の入り口」、p. 114-115「政治のこれから」など、選挙権年齢引き下げに伴い、主権者教育のための教材を充実させました。

また、p. 62-63「『ともに生きる』ためにできること」、p. 88-89「新聞の社説を比べてみようーディベート」、p. 104-105「裁判員になって判決を考えようーシミュレーション」、p. 166-167「人生をデザインしようーシミュレーション」など、豊富なコラムを設け、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。

③公民的資質を育む紙面構成

見開き1単位時間の紙面で、社会科の原則である問題解決型の学習過程、



の流れを明確にし、生徒が幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました。

④具体的な事例を通して学べる「対立と合意、効率と公正」

学習指導要領の「現代社会をとらえる見方や考え方」について、p. 30-31「対立から合意へ」を中心に、各章の「入り口」「これから」など、「対立と合意、効率と公正」について学べる教材を随所に配置することにより、正義や責任、自他の敬愛と協力について考えることができるようにしました。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
持続可能な開発目標（SDGs） 持続可能な社会をめざして	・豊富な写真を用いて、日本と世界の抱えるさまざまな課題に気付く、興味・関心を持つことができるようにしました（第1号）。	巻頭①② 巻末①②

なぜ「公民」を学ぶのか 「公民」について	・「日本の歴史」に連なる存在であることを自覚した上で、「家族・地域社会・国家・国際社会」との関係を認識することにより「自分の立ち位置」を知り、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。	口絵③-1 8
第1章 私たちの生活と現代社会	・言語活動に取り組む見開きを設け、章の内容に興味・関心を持ち、学習の基本となる考え方に気付くように工夫しました（第1号）。	10-11 34-35
第1節 私から見える現代の日本社会	・グローバル化、情報化、少子高齢化について、具体例をバランスよく紹介することにより、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。	14-21
第2節 現代社会の文化と私たちの生活	・年中行事や伝統文化を紹介し、興味を促します（第1号、第5号）。	22-25
第3節 現代社会をとらえる見方や考え方	・真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うにあたり、「現代社会をとらえる見方や考え方」の基礎である「対立と合意、効率と公正」について学べるようにしました（第1号）。 ・我が国の歴史と伝統と文化を育んできた、家族と郷土という社会集団について、具体例を通して、考えられるようにしました（第5号）。	26-33 26-29
第2章 私たちの生活と政治 日本国憲法の基本原則	・言語活動に取り組む見開きを設け、章の内容に興味・関心を持ち、基本となる考え方に気付くとともに、学習を通して公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第3号）。	38-39 74-75
第1節 日本国憲法の基本原則	・日本国憲法の基本原則である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について、具体例を挙げて紹介することにより、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について詳しく取り上げ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました（第5号）。 ・平和主義について、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察するとともに、各国の相互理解などの重要性を認識できるようにしました（第5号）。	40-55 44-45 50-53
第2節 基本的人権の尊重	・基本的人権を尊重する態度を養うために、歴史的分野の学習を生かしながら、日本国憲法の平等権や政府の政策を交えて説明し、理解を深められるようにしました（第2号）。 ・差別や男女の平等については、偏った理解にならないように、日本国憲法の平等権や政府の政策などを通して説明しています（第3号）。	56-73 58-63
第3章 私たちの生活と政治 民主政治と政治参加	・言語活動に取り組む見開きを設け、章の学習内容に興味・関心を持ち、基本となる考え方に気付くとともに、学習を通して公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第3号）。	78-79 114-115
第1節 民主政治のしくみ	・議会制民主主義の意義や、民主政治のしくみについて、具体例を挙げて紹介することにより、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。 ・正反対の立場の新聞の社説を取り上げ、ディベートを通して、公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、発展に寄与する態度を養えるようにしました（第3号）。	80-87 88-89
第2節 国の政治のしくみ	・国会、内閣、裁判所のしくみや働きについて、具体例を挙げて紹介することにより、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。 ・裁判員制度について詳しく取り上げ理解を促すとともに、裁判員となって具体的な事例を通して考えるページを設け、正義と責任について学習できるようにしました（第1号、第3号）。	90-107 102-105
第3節 地方自治と住民	・地方公共団体の仕事やまちづくりについて、身近な例を示しながら理解をはぐくむとともに、主体的に社会に参画し、発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第3号）。	108-113
第4章 私たちの生活と経済	・言語活動に取り組む見開きを設け、章の学習内容に興味・関心を持ち、基本となる考え方に気付くとともに、章の学習全体を通して公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第3号）。	118-119 168-169
第1節 消費と経済	・身近な消費生活を中心に、経済活動の意義について具体例を挙げて紹介し、経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察す	120-129

第2節 生産と労働	る活動を通して、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度と、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにしました（第1号、第2号）。 ・企業の社会的責任や社会貢献、働くことの意義と役割について、具体的な事例を挙げながら説明することにより、理解を深め、勤労を重んずる態度を養えるようにしました（第1号、第2号）。	130-143
第3節 市場経済と金融	・市場経済の基本的な考え方や、金融のしくみや働きなどについて、具体的な事例を挙げながら説明することにより、理解を深め、勤労を重んずる態度を養えるようにしました（第1号、第2号）。	144-153
第4節 政府の役割と国民の福祉	・社会資本や公害の防止など環境の保全、財政及び租税の意義、社会保障などについて、具体的な事例を挙げながら説明することにより、理解を深め、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第3号）。	154-167
第5章 私たちと国際社会の課題	・言語活動に取り組む見開きを設け、章の学習内容に興味・関心を持ち、基本となる考え方に気付くとともに、章の学習全体を通して公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第3号）。	172-173 204-205
第1節 持続可能な社会をつくるために	・持続可能な社会の形成について、海外の事例を写真やコラムで紹介しながら、生命を尊び、自然を大切にし、資源や環境を保全するための方策について考えられるようにしました（第1号、第4号）。	174-183
第2節 国際社会の中の日本	・日本国憲法の平和主義を踏まえ、国際社会における人権問題や地域紛争、核兵器の問題について詳しく取り上げ、各国の相互理解と協力などの役割の重要性について認識するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました（第1号、第5号）。	184-201
よりよい社会をめざして	・社会科のまとめとして、「持続可能な社会の形成」という観点から、テーマの設定から、プレゼンテーションを通じてレポートにまとめるまでの一連の学習の流れを通して、社会科の学習についてまとめられるようにしました（第4号）。	207-213

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学習を助ける学習資料の充実

- 公民の学習に欠かせない主な法令や年表、日本の伝統文化の一覧表など、学習資料を巻末に充実させました。日本国憲法には難しい用語の解説を付け、理解を深められるように配慮しました。

授業を円滑に進める図版番号

- 図版資料には、見開きごとに通し番号を付け、先生が示しやすく、生徒も確認しやすいように配慮しました。

カラーバリアフリーへの配慮、ゴシック体のふりがな

- 図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫により、生徒が見やすいように配慮しました。
- ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮しました。

環境への配慮

- 教科書には、環境への負荷の少ない再生紙と植物油インキを使用しました。

特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の観点から、資料の掲載部分には罫線を引いて識別しやすくしました。
- グラフや地図などでは、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用しました。
- 資料等のレイアウトでは、見分けがつけやすいように極力凹凸が発生しない工夫をしました。
- 学習者用デジタル教科書を発行し、特別支援教育に活用できる機能を付加します。

二次元コードの利用で生徒の理解や自学を支援

- 教科書に掲載している資料の一部を、タブレットパソコンなどで閲覧できます。
- 各章冒頭に掲載した二次元コードでは学習内容に関する動画を閲覧でき、より理解を深めることができます。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-20	中学校	社会科	公民的分野	3年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号		※教科書名	
227 育鵬社	公民 227-92		新しいみんなの公民	

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色 1

“公民の学習の流れが見える”教科書

基礎的な知識・技能を習得できるように教材を充実させました。社会事象を自分事としてとらえられる教材をバランスよく配置し、構成しました。学習意欲を高め、持続可能な社会を実現する公民としての基礎的教養を育みます。小学校社会科で学習した関連内容は各章扉で、地理的分野・歴史的分野で学習した関連内容は該当する見開きで紹介することにより、小・中の系統性と3分野の関連性を高め、スムーズに学習に入れるようにしました。

教科書の基本構成

◆各授業の学習の流れ



各章の基本構成

◆各章の学習の流れ

課題をつかむ

1 章の導入

●章扉で学習内容を概観する
その章でどういうことを学ぶのか、学習内容と社会の実態の思みの関連性を紹介しています。



●章の「入り口」
章のなかでどのような学習を展開していくのか、そのきっかけとなる話題を扱っています。話題をめぐり、学習内容への関心を深められます。



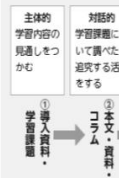
●前の課題
各節の見出しと題の課題を一覧にし、意識しながら学習に取り組めるようにしています。



課題について調べる

2 本文ページ

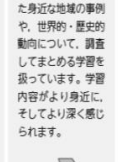
本文は1授業時間に通じた教材の分量を厳選し、1つのテーマについての学習内容を1授業時間＝見開き2ページにまとめました。



課題についてまとめる・表現する

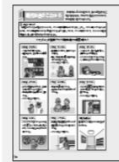
3 特設ページ

●巻頭・巻末では、SDGsについて解説しています。
●見開きの【学習を深めよう】では、章の学習内容に関連した身近な地域の事例や、世界的・歴史的動向について、調査してまとめる学習を扱っています。学習内容がより身近に、そしてより深く感じられます。

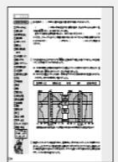


4 章の総括

●章の「これから」(出口)
章の学習内容を活かして、学びを深めるページです。たがいに意見を出し合い、見方・考え方を広げ、物事の多様性に気づいたうえで、学びを深められるように構成しています。



●学習のまとめ
章の学習内容を簡潔にまとめています。



各章には、学習の段階に応じた多様な言語活動を掲載しました。習得した知識・技能を活用して考えたり、判断したり、表現したりする力を育みます。

○各章の「入り口」と「これから」

導入に、章の学習内容の趣旨をとらえさせる「入り口」を設け、学習内容への興味・関心を促すようにしま

した。また、章末には、その章で学習した内容を踏まえて、社会事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したり未来の姿を構想できるような課題に取り組む「これから」を設け、学びに向かう力や人間性を養えるようにしました。

各章の「入り口」



▲p.38-39「2章憲法の入入口」

p.10-11「1章現代社会の入入口」、p.78-79「3章政治の入入口」、p.118-119「4章経済の入入口」、p.172-173「5章国際社会の入入口」

各章の「これから」

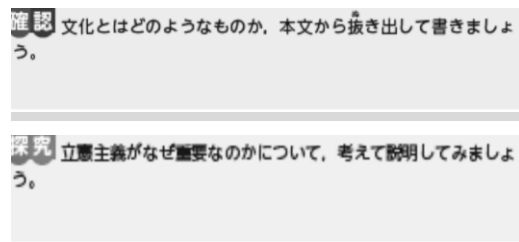


▲p.74-75「2章憲法のこれから」

p.34-35「1章現代社会のこれから」、p.114-115「3章政治のこれから」、p.168-169「4章経済のこれから」、p.204-205「5章国際社会のこれから」

○思考力・判断力・表現力を育む毎時間の言語活動（鉛筆マーク）

本文見開きページでは、各時間の終わりに、[確認]と[探究]を設けました。前者は基礎的・基本的な内容の学習を確認する課題、後者はこれまでの学習を深める課題です。1時間の学習内容を自分の言葉でまとめるだけでなく、問い方にバリエーションを持たせ、社会的事象の意味、意義を解釈したり、事象間の関連を説明させるような言語活動に取り組めます。それにより、授業の最後や自宅学習などで無理なく生徒の基礎的な言語力を養えます。



◀p.21

◀p.41

○多面的・多角的な視点を提供する教材の充実

現代の社会事象を生徒が多面的・多角的にとらえ、また、学習した知識を活用していくためにさまざまな教材を掲載しました。

学習を深めよう (緑地 8 か所)

学習を深めよう (黒地 42 か所)

本文での学習を詳しく説明したり関連する内容を取り上げ、知識、思考力・判断力を身につけられるようにしました（緑帯は見開きの大コラム、黒帯は小コラム）。

やってみよう (11 か所)

本文の学習を深めるために、個人やグループで作業や活動を行い、技能や表現力を身につけられるようにしました。

特色 2

「つかむ、調べる、まとめる」問題解決型学習の教材配列

生徒の学習に対する興味・関心を高め、内容の理解へと導く過程を紙面に構成しました。「つかむ」ための資料、「調べる」ための資料、「まとめる」ための資料をバランスよく配置。1時間で資料を効果的に使い、問題解決できるような課題設定と、資料や調査学習を通して「考え」「判断した」ことを自分なりの表現方法でまとめるテーマ設定で、知識・思考・判断・表現の一体化を図りました。

つかむ

①生徒の興味・関心を高める導入資料

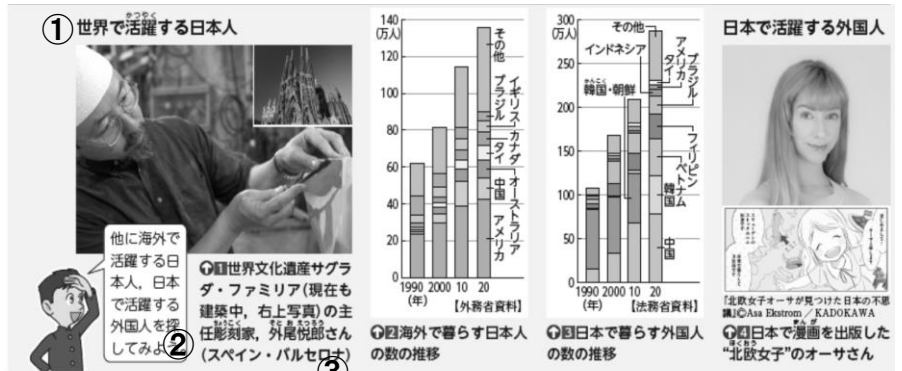
見開きの冒頭には複数の資料を掲載し、生徒が興味・関心を持って学習できるようにしました。

②生徒に課題認識をさせるフキダシ

導入資料を読み取る視点を提示しています。課題を主体的にとらえ、生徒の学習をサポートします。

③学習のねらいがわかる【学習課題】

見開きで「何を学ぶのか」を明確に示して、生徒が見通しを持ちながら学習を進めることができます。



1 **世界とかかわる私**

グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。

グローバル化とは 世界中に張りめぐらされた交通網は、人や物資の輸送を盛んにし、世界を身近なものにしました。

▲p.12

調べる

④生徒が理解しやすい本文

平易な言葉で制度やしくみ、社会事象の内容や事象間のつながりなどを丁寧に説明しました。学習内容を理解しやすいように工夫しています。

⑤学習内容を深めるコラム

本文での学習を詳しく説明したり関連する内容をとり上げた【学習を深めよう】、言語活動や調査などを促す【やってみよう】といったコラムを随所に設けて、学習に具体性や発展性をもたせるようにしました。

⑥本文の理解を助ける図版資料

写真や表・グラフ・図・コラムなどを豊富に掲載し、本文内容を補足し、理解を助けるよう配慮しました。

⑦図版資料に関する課題【資料活用】と【見方・考え方】

図版資料について、考えたり、調べたりする課題を示す【資料活用】と、身近なできごとや自分の生活に影響があることをとりあげ、それをもとに学習を深める【見方・考え方】を適宜設置しました。

⑥ 自衛隊明記賛成55%

⑦ 新聞の世論調査

⑧ 新聞というメディア

⑨ 日本国憲法に保障されている基本的人権と、国民の義務には何かがあるか、本文から抜き出して書きましょう。

⑩ 公共の福祉により、憲法上の自由が一部制約されるのはなぜか考えて、説明してみましょう。

▲p.87

まとめる

⑧学習内容を確認する【確認】と【探究】

学習内容を振り返ります。【確認】では基礎的・基本的な内容の学習を確認し、【探究】では学習を深めます。レポートや論述形式でまとめたり解釈したりするなど、多様な言語活動に取り組みます。

▲p.49

特色3

多面的・多角的に考察する力を養う教材

公民的分野の学習内容と自分の人生や社会とのつながりを感じることができるような教材を充実させました。また、基礎的な知識・技能を、実社会や実生活の中で活用できるように、「現代社会の見方や考え方の基礎」を習得し、物事を多面的・多角的に考察する力を養います。

○具体的な事例を通して学べる「対立と合意、効率と公正」

学習指導要領の「現代社会をとらえる見方や考え方」について、「対立と合意、効率と公正」という現代社会の見方や考え方の基礎を着実に習得するとともに、合意形成の重要性に気付くことができるように、具体的な事例を通して学べるようにしました。

部活動の平日のグラウンド割りを考えよう(1)

- 右記の3つの部活動がグラウンドを利用する
- 部活動の使用可能時間は15:30~17:30
- グラウンドは全面もしくは半面に分けて使用できる
- グラウンド外では練習できない
- 生徒会で各部長が集まり話し合っている

サッカー部

- 部員20名
- 市大会を突破し、県大会へ毎年出場
- グラウンドを全面利用したい

野球部

- 部員30名
- 毎年、市大会で敗退
- グラウンドを全面利用したい

テニス部

- 部員10名
- 全国大会出場の常連校
- グラウンドを半面利用したい

「効率」と「公正」の観点から、みんなが納得できるグラウンド割りを考え、グループで話し合ってみましょう。

「残った半面はどちらの部が使用しても大丈夫」

「部員数に応じて決めるのはどうか」

「テニス部は全面使用してよいので、1日練習日を減らしてもらえないかな」

▲p.30

対立

解決策の考え方

効率 資源（お金や時間など）が無駄なく利用されているか。

公正 ①みんなが参加してきまりを作成しているか。（手続きの公正）
②不当に不利益をこうむっている人はいないか。（機会の公正）
③それぞれにとって妥当な結果になるか。（結果の公正）

合意

▲p.31

○基礎的な技能を身につける「スキルアップ」

発表や議論のしかた、ロールプレイング、ディベート、KJ法、ランキング、ポスターツアーなど、公民の基礎的な技能を身につける「スキルアップ」を7か所設置しました。

- ・ディベート ⇒ p. 88
- ・KJ法で意見を整理しよう ⇒ p. 114
- ・ランキングで考えてみよう ⇒ p. 115
- ・ポスターツアー ⇒ p. 169

スキルアップ! ディベート

ディベートとは、ある特定のテーマ（論題）について、肯定側と否定側の二つの立場に分かれ、自分たちの主張が正しいことを論理的に立証したり、反論したりすることを、ゲームとして行う討論の方法です。普段の話し合いと大きく違う点は、自分の意見に固執し、肯定派と否定派に分かれて討論することです。

討論の過程は、公平な立場でジャッジをする傍聴者が記録し、どちらの側が論理的で説得力があったかを判定し勝敗を決めます。

自分の考えと違う立場に立つ機会があり、相手の立場だけではなく、異なる意見について深く考えたり、自分の意見を振り返ったりすることができます。

肯定側

否定側

①立論
肯定側(2分)
否定側(2分)
作戦タイム(1分)

②反対尋問
肯定側(2分)
否定側(2分)
作戦タイム(1分)

③最終弁論
肯定側(2分)
否定側(2分)

①立論 立論とは、「立」てるという意味です。肯定側はメリットなどを、否定側はデメリットなどをあげ、テーマについて、第三者（ジャッジ）にわかり

②反対尋問 相手の主張を弱くし、自分の主張を強くする。相手の主張を論理的に組み立てておく。

③最終弁論 最終的に自分の主張をまとめ、ジャッジに伝える。

①立論 立論とは、「立」てるという意味です。肯定側はメリットなどを、否定側はデメリットなどをあげ、テーマについて、第三者（ジャッジ）にわかり

②反対尋問 相手の主張を弱くし、自分の主張を強くする。相手の主張を論理的に組み立てておく。

③最終弁論 最終的に自分の主張をまとめ、ジャッジに伝える。

▲p.88

○持続可能な社会を築いていくための「社会科のまとめ」の言語活動(よりよい社会をめざして)

中学校3年間の社会科の学習を通して得た知識や技能を用いて、社会科のまとめとして「持続可能な社会の形成」という観点から課題を探究し、レポートにまとめる単元を設けています。仮説の立て方やプレゼンテーションなどの言語活動も掲載し、社会科の学習内容を自らの生き方へと結び付け、社会に参画する態度を養っていきます。

課題解決のよき

「持続可能な社会の形成」をテーマにした言語活動の事例を掲載しています。各事例には、学習のねらい、活動の概要、学習の成果などが記載されています。

事例名	概要	学習の成果
持続可能な社会の形成	持続可能な社会の形成について、各分野の専門家から話を聞き、自分たちの考えをまとめる。	持続可能な社会の形成の重要性を理解し、自分たちの役割を明確にできる。
持続可能な社会の形成	持続可能な社会の形成について、各分野の専門家から話を聞き、自分たちの考えをまとめる。	持続可能な社会の形成の重要性を理解し、自分たちの役割を明確にできる。
持続可能な社会の形成	持続可能な社会の形成について、各分野の専門家から話を聞き、自分たちの考えをまとめる。	持続可能な社会の形成の重要性を理解し、自分たちの役割を明確にできる。

▲p.207-213

特色 4

現代社会の課題に主体的に向き合う多様な教材

○現代社会の理想と現実が分かる教材

写真や新聞記事を用いて、日本と世界の抱える課題に関する幅広い教養を身に付けられるようにしました。

- 防災教育** 「情報化」との関連で防災情報の発信・活用に関して学べます。 ⇒ p. 14-15, 16-17 など
- 情報化** 知識基盤社会化による産業や社会の構造的な変化について、情報通信技術 (ICT)、ビッグデータ、人工知能 (AI)、IoT などについて取り上げました。 ⇒ p. 14-15 また、「起業」と関連付けて詳しく取り上げました。 ⇒ p. 133, 147, 148-149 など

最新の金融サービス

最新の金融サービスに関する教材のスクリーンショットを掲載しています。内容は、最新の金融サービスに関する情報や、金融サービスの活用方法などが紹介されています。

▲p.148-149

○持続可能な社会をつくるための教材

持続可能な開発目標（SDGs）に関する教材を豊富に紹介することにより、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。⇒巻頭口絵①②， p. 174-175， 巻末付録①②など

○公民的資質を養うための教材

選挙権年齢引き下げに伴い、政治参加などに関する主権者教育のための教材を充実させました。⇒p. 38-39， 74-75， 78-79， 114-115 など また、正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。⇒p. 62-63， 88-89， 104-105， 166-167

○領土に関する記述のさらなる充実

我が国固有の領土である北方領土や竹島に関する領土問題や、尖閣諸島をめぐる情勢について、我が国政府の見解を紹介しながら、地理的分野，歴史的分野における学習の成果も踏まえて記述しました。⇒p. 186-187， 190-191， 192-193 など

○伝統と文化に関する豊富な教材

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにしました。⇒p. 20-25， 214-215 など また、グローバル化の時代の国境をこえた文化の交流と多様性について紹介し、他国を尊重する態度を養えるように配慮しました。⇒p. 24-25， 182-183 など

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
持続可能な開発目標（SDGs）	D (2) ア， <内容の取り扱い> (1) ア	巻頭①②	1
第1章 私たちの生活と現代社会			
現代社会の入り口	A (1) ア (ア)	p. 10-11	1
第1節 私から見える現代の日本社会	A (1) ア (ア)， イ (ア)	p. 12-19	4
第2節 現代社会の文化と私たちの生活	A (1) ア (イ)， イ (イ) <内容の取り扱い> (2) ア (ア) (イ)	p. 20-25	3
第3節 現代社会をとらえる見方や考え方	A (2) ア (ア) (イ)， イ (ア)	p. 26-33	4
現代社会のこれから	A (2) ア (ア) (イ)， イ (ア)	p. 34-35	1
第2章 私たちの生活と政治—日本国憲法の基本原則—			
憲法の入り口	A (2) イ (ア) C (1) イ (ア)	p. 38-39	1
第1節 日本国憲法の基本原則	C (1) ア (イ) (ウ)， イ (ア)	p. 40-55	8
第2節 基本的人権の尊重	C (1) ア (ア)， イ (ア)	p. 56-73	9
憲法のこれから	A (2) イ (ア)， C (1) イ (ア)	p. 74-75	1
第3章 私たちの生活と政治—民主政治と政治参加—			
政治の入り口	A (2) イ (ア)， C (2) イ (ア)	p. 78-79	1
第1節 民主政治のしくみ	C (2) ア (ア) (イ)， イ (ア)	p. 80-89	5
第2節 国の政治のしくみ	C (2) ア (ア) (イ) (ウ)， イ (ア)	p. 90-107	9
第3節 地方自治と住民	C (2) ア (エ)， イ (ア)	p. 108-113	3
政治のこれから	A (2) イ (ア)， C (2) イ (ア)	p. 114-115	1
第4章 私たちの生活と経済			
経済の入り口	A (2) イ (ア)， B (1) イ (ア)	p. 118-119	1
第1節 消費と経済	B (1) ア (ア) (イ)， イ (ア)	p. 120-129	5
第2節 生産と労働	B (1) ア (ア) (ウ) (エ)， B (1) イ (ア) (イ)	p. 130-143	7
第3節 市場経済と金融	B (1) ア (ア) (イ) (ウ)， イ (ア)	p. 144-153	5
第4節 政府の役割と国民の福祉	B (2) ア (ア) (イ)， イ (ア) (イ)	p. 154-167	7
経済のこれから	A (2) イ (ア)， B (1) イ (ア)	p. 168-169	1
第5章 私たちと国際社会の課題			
国際社会の入り口	A (2) イ (ア)， D (2) ア	p. 172-173	1
第1節 持続可能な社会をつくるために	D (1) ア (イ)， イ (ア)	p. 174-183	5
第2節 国家と国際社会	D (1) ア (ア)， イ (ア)	p. 184-203	10
国際社会のこれから	A (2) イ (ア)， D (2) ア	p. 204-205	1
よりよい社会をめざして	D (2) ア， <内容の取り扱い> (5) イ	p. 207-213	5
		合計	100